

名古屋フリーGIS活用が大賞

日水協

水道イノベ 広報は熊本市「水道管リニューアル大作戦」

日本水道協会は8月26日、「水道イノベーション賞」と、今年度新たに創設した「水道イノベーション広報大賞」の受賞取り組みを発表した。水道イノベーション賞の大賞は名古屋市上下水道局の「災害復旧支援におけるフリーGISソフト『QGIS』の活用」で、簡易な水道台帳システムの構築により災害時の調査・復旧活動を効率化した点を高く評価した。一方の水道イノベーション広報大賞は熊本市上下水道局による「まちなか水道管リニューアル大作戦」で、地域の理解を深めながら更新事業の円滑な遂行を図った取り組みだった。水道事業の課題解決に向けた取り組みと、それら課題への国民理解を促す官民合わせた広報の取り組み。この両輪が水道事業を基盤強化に導いていく。

水道課題解決へ 好事例の共有を

水道イノベーション賞は、水道事業が直面する多様な課題をさまざまな工夫で克服し、基盤強化を図ろうとする水道事業者の取り組みを表彰する。日本水協会長表彰の一つ。今年度から広報活動に限定した水道イノベーション賞広報大賞も設けた。

広報大賞は賛助会員を対象にしている。前者には13事例、後者には28事例の応募があった。それぞれ大賞と、特別賞を選定した。10月29日から広島市で開催する全国会議で授賞式を実施。受賞事例の小発表の時間を設け、受賞しなかった事例についてもパネルで好事例として紹介される。

水道の国民理解へ民間も 栗本、大成に広報特別賞

の大賞を受賞した名古屋上下水道局の「災害復旧支援におけるフリーGISソフト『QGIS』の活用」は、災害時に無償で利用できるオープンソースのGISを活用し、現地に簡易な水道台帳システムを構築して、コストをかけることなく

調査・復旧活動の迅速化を実現した取り組み。簡易な水道台帳システムを構築することで1人1台使用可能な環境整備を実現、被災地である現地の要望に応じて栓弁類等の表示調整、漏水箇所のプロット機能等の追加により、復旧作業の効率化と情報共有を実現した。日水協では、「被災自治体、応援事業者ともに調査・復旧活動の効率化を可能とした取り組みとして、大いに評価できる」とした。

特別賞は、神奈川県企業庁、横浜市水道局、川崎市上下水道局、横須賀市上下水道局、神奈川県内広域水道企業団による

「神奈川県内の水道事業者が目指す『水道システム再構築』の取組（脱炭素化に繋がる相模川上流からの優先取水）」と、久留米市企業局の「浄水施設における発動指令電源の容量市場への提供による脱炭素及び収益増への取組」の2事例。神奈川県内5事業者が連携して水道システムの再構築に取り組んだ点、久留米市の大規模施設を保有しない中小事業者が小容量で容量市場への参入しやすい入札方法を確立した点などを高く評価した。

水道イノベーション広報大賞を受賞した熊本市上下水道局の「まちなか水道管リニューアル大作戦」は、伝えるチカラで、見えない「工事」を「見えるカタチ」にすることで、事業の意義や必要性といった認知向上、工事の情報をも多くの人々に行き届かせるため積極的な広報活動により、地域の理解を深めながら更新事業の円滑な遂行を図った。「広範囲」かつ「様々なターゲット」の2つの情報発信を意識した活動を展開したといい、様々な広報を用いて幅広いターゲットへの情報発信を行った結果、約7割の市民に水道管リニューアル大作戦が認知されたという。

広報特別賞は3事例で、うち2事例は賛助会員による取り組みだった。横浜市水道局の「子ども向け水道工事体験型を活用した新たな水道工事PR」は配管整備の重要性のPRについて子どもが遊びながら工事の手順を体験することで、幅広い世代に配水管整備の理解向上を目指した取り組み。賛助会員からは栗本鐵工所の「水道イベントにあわせて、水道の大切さをアピール」で、メッセージを発信した。日水協では「遊び心」を大切に

した広報活動により、水道の重要性と水道へ興味をもつていただくための効果的な取り組み」と評価。大成機工は、職業体験施設であるキッサニア甲子園に出席し、子どもたちが水道の仕事を体験することでライフラインを整備して街を守る事に興味や理解を深めてもらうとともに、水道事業の大切さを伝えていく。子どもたちの職業体験を通じて水道への興味をもってもらい、将来の水道事業の担い手として評価した。